

令和3年度後期 学生の学修時間・学修行動の把握に関する実態調査 分析報告書
(簡易版・外部報告用)

1. はじめに

本調査の目的は、分析結果をもとに、教育活動の見直し及び、学生の自主学習を促し「学修」を身につけさせ、大学教育の質の担保を高める方策の検討に資することにある。学修時間・学修行動のみならず、学生個別のGPAや属性を踏まえた分析をおこなった。

2. 分析結果

ここでは基本統計量を示した上で、今回の調査データに成績データ（GPA）と属性データ（学科、入試区分など）を加えておこなったクラスター分析と重回帰分析の結果を示す。

(1) 基本統計量

本調査における在籍者数（1,150人）に占める有効回答数（627人）の割合は54.5%であった。他の基本情報は表1の通り。

表1 基本統計量 (単位：分)

	R3 後期	R3 前期
課外活動団体（クラブ活動）に充てた時間（1週間あたり平均）	36.1	35.2
地域活動やボランティア活動に充てた時間（1週間あたり平均）	15.0	7.3
アルバイト活動にあてた時間（1週間あたり平均）	637.4	584.0
オンデマンド授業にかける学習時間（1日あたり平均）	66.0	69.6
予習・復習にかける学習時間（平日、1日あたり平均）	44.1	39.2
授業以外の勉強に充てた時間（平日、1日あたり平均）	41.9	37.8

(2) クラスター分析の結果

前期の結果を参考にして、8つのクラスに分類した。成績（GPA）別にクラスを分類し、各クラスの特徴をまとめたものは次の通り。

表2 クラスの特徴

①成績（GPA）が高い集団		
・クラス1	優秀層。学習時間、課外活動・アルバイト時間をある程度確保し、コースにも所属している。高校時評定平均が高い。	
・クラス8	クラス1に次ぐ成績。学習・課外活動等の活動量が少ない。	
②成績（GPA）が平均的な集団		
・クラス4	資格取得に積極的で学習時間が多い。部活動には未所属。	
・クラス5	学習や課外活動など平均的な集団。	
・クラス6	クラス5とほぼ同じ特徴だが、課外活動には消極的。	
③成績（GPA）が低い集団		
・クラス2	無目的層。課外活動・アルバイト等の活動量が少ない。	
・クラス3	アルバイト時間が著しく高い。部活動・コースに未所属。	
・クラス7	部活動時間が著しく高い。コース未所属。	

(3) 重回帰分析の結果

GPA を被説明変数とした各要素の重回帰分析から次のことがわかる。

- GPA に正の影響を持つ要素は、高校在籍時評定平均、課外活動への参加である。
- GPA に負の影響を持つ要素は、アルバイト時間である。
- 予習復習時間等の自主学習時間は GPA に有意な影響をもたない。

また、クラスター情報を踏まえると、クラス 2 (無目的層)、クラス 3 (アルバイト時間多め)、クラス 7 (部活動時間多め) に含まれることで、GPA に強く負の影響をもつことがわかった。

3. まとめ

クラスター分析の結果は前期とほぼ同様のものが見られたが、主体性に欠けると思われるクラス (無目的層) が新たに発見された。このクラスについては追跡調査を行う必要がある。

重回帰分析の結果、前期とほぼ同様の結論が得られた。アルバイト時間、高校在籍時評定平均、課外活動への参加の有無は成績 (GPA) に対して重要な役割をもつ一方で、学習時間は成績 (GPA) に有意に影響をもつ要素ではなかった。しかし、主体性に欠けると思われるクラスがある程度学習時間をとっても成績 (GPA) の向上につながっていないことを考慮すると、単なる学習時間だけでなく、学習に取り組む姿勢・意欲を改善するような指導が重要であると考えられる。

以上